５つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
草莽荘の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.564-565
夏の体験学校の沢の下見を実施しました

【定例活動報告】草莽荘の森

＜先月の活動から＞関東甲信越地区では、昨年より8日早い梅雨入り宣言が出された。学芸大附属の生徒さん20名他学芸大院で環境学を学ばれている阿部さんは,岩手大学林学部から院入学された森林命の方です。同じく学芸大院制の木育ガールキキちゃんが参加されて、お寺の裏山で間伐体験学習を３班に分けて行った。比較的小さくなりがちな受け口について指導した。写真にあるような受け口を作っておくと伐倒方向の微調整ができやすい。

そんな訳で、今日の学生さんはちゃんとした受け口を作ることが出来ました。斜め切りは慣れないと難しく時間がかかるが、掛かり木にしないで済むことを考えると大した苦労ではないことを学ぶことができたと思います。

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

第３の活動日は梅雨入りし四阿周辺の紫陽花もきれいに咲き乱れています。今日は、花畑最下部の竹林奥に「栴檀」センダンの苗木を２０本植樹した。20～30センチ土を掘り、株を植え埋め戻した土を踏んで、しっかり水を遣り、補助木を立て麻ひもで軽く縛っておきます。各自が分担して作業を終えた後、周囲のアオキなどを除伐し終了。生育が楽しみだ。

小林　照夫（本会、理事）

【定例活動報告】
知足の森

今回は8月の体験学校の下見を行った。沢の水は、透明で割と早く流れる。流されるほどではないが、たまに転びそうになる。外気よりも圧倒的に冷たくて、最初は涼しかった。まずは、上流に上がりながら、枝やごみをどける作業。たまに割と大きな木があり、のこぎりで切断して、運ぶしかなかったりする。特に時間がかかったものは、大きな木が倒れていて、かつ上には小枝とごみ、そしてなぜか緊急時用の消防ホースが、絡まっている意味の分からない木だった。のこぎりで切断したとはいえ、1つ1つが３～４人で持ち上げないといけないぐらい、非常に重たかった。このあたりから、岩が大きくなり、水が冷たくなってくる。流れは一気に早くなり、水も深くなる。気を抜くと転ぶようなところがたくさんあった。

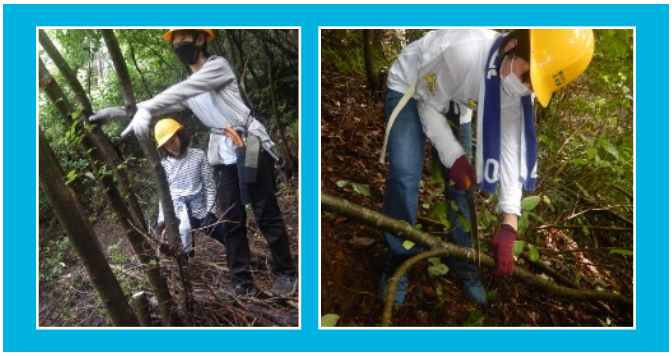
ある一定のところに来ると、陸に上がり、弁当を食べた。陸に上がってみて気づいたが、その先にとんでもなく高く、垂直な滝があった。弁当を食べている途中に気づいたが、水が圧倒的に冷たい。浸かっていたら凍えそうなほどだ。そんな状況下で、希望者はまだ進む。なんと2メートルぐらいの滝があった。意外と簡単に登れたが、水が当たって凍え死にそうになった。そこから５個ぐらい滝を上って、そろそろ上がるのかと思った矢先、大きな滝があった。これも登るのかと思ったが、さすがにそんなことは無かった。なぜか全員がここで滝行をした。ものすごい勢いの水と寒さの２連撃で死ぬかと思った。

そこから歩いて戻り、待機している人と合流。結構高低の激しい道を歩き、公道に出た、しかし着替えるための場所（←名前を忘れてしまいました）に行くにはまだ歩かなければならず、着いたときは、かなり疲労していた。そこで休憩し、相模湖駅まで歩いた。

沢などの激流に行くことはしばしばあったが、激流を遡ることは、初めてだったため、改めて自然の凄さを感じた。

GREEN TECH ENGINEER LAB 中学１年生男子

今日は初めて森の活動に参加した。午前中は木の整備を行いました。同級生や先輩方、先生にコツを教えてもらった。ポイント１つ目は木を切る時は、横一列に並んで上の方へ徐々に切って行く。これはみんなで同じ場所を切ると空き地みたいになってしまうのを防ぐためだ。２つ目は１本の木が何本かに分かれているやつは細くて邪魔になりそうな部分だけを根本から切って、1・2本だけ残す。これにより、光がより入ってきて残りの1・2本がよく成長することができる。



畑から戻って木を切るのに協力した。木が切れても他の木に引っかかってしまってなかなか倒せなかったが先生の知恵により木を倒すことができた。長い時間かけて頑張ったから達成感があった。終わった後に神様に挨拶をした。今回の活動で木の切るコツを学んだり、自然の恵み・凄さを感じました。日光の当たる部分を増やして、木が大きく成長してくれたら良いと思います。

GREEN TECH ENGINEER LAB 中学１年生女子

桜井尚武の森のコラム

「アカガシ (*Quercus acuta*)」

図1 アカガシ

20171124小石川植物園

図2 新葉もあるアカガシ

20190515　筑波山

図3 壮大な樹冠を広げるアカガシ

20190515筑波山

図4 離れてみるアカガシの大径木

20191104東高根森林公園川崎

ブナ科コナラ属の常緑高木で樹高20m、直径80cm以上になります。葉は互生、長楕円形で鋸歯のない全縁、先端は細長く延びて20㎝位になるものもあり葉柄も長く、カシ類(アカガシ亜属Cychrobalanopsis)の中では一番大型の葉です。宮城・新潟以西の本州から四国、九州の暖温帯に分布しますが、ブナ帯相当の所までにも分布するカシ類の中ではとても耐寒性が高い樹種で、朝鮮半島、中国にも分布します。図3、4は筑波山(標高877m）のブナ林が温帯林へと替わる辺りで見た大きな木です。

果実はドングリです。このドングリを支えているお椀状の組織を殻斗（かくと、英語ではcup）いい、総苞ともいいます。この総苞片が合着して同心円状に並ぶのがコナラ属のうちのアカガシ亜属の特徴で、コナラ亜属(Quercus)の総苞片は合着せず瓦を重ねたように並びます。前回紹介したシラカシと異なり、果実は受精した翌年に成熟します（文末の※参照）。材はカシ類の中でも一番堅くて丈夫といわれ、堅牢さが必要なものに重用されました。貴重な材ですが生産効率が良くないので人工林はないようです。

アカガシの名称は赤樫で、材が赤味を帯びているところから来ているといいます。ところで、植物分類の専門家を見つけにくい海外で植生調査を行った時に同行を頼んだ現地の補助者には製材関係者の場合がよくありました。これは製材関係者が材質から木材の区別を的確にできているという事実を顕わしているということでもあります。材の特徴から樹木の分類をしている例が多いのです。用途に応じて材質を細かく分別する必要のある利用分野で先に名前が付けられて、それが標準名になることが多々あるのだと納得しました。

※訂正：先月号の「シラカシ」の記事で「果実は受精した翌年に成熟します。」と書きましたが「果実は受精したその年の秋に成熟します。」の間違いでした。お詫びして訂正いたします。

桜井　尚武（本会、会員）

【GREEN TECH ENGINEER LABの活動から】

間伐を活用した活動を続けている学芸大のGTEラボでは、附属学校の武道場女子更衣室の入り口に設置するすのこの設計にミスがあり、前半はその修正をした。ビスを外し、調整してビスをうち、余分な部分を切り落とした。余分な部分をカットした際に出た木材は、今のところ教室のロッカー整理に役立てないかとの意見が出ている。

さらに大学図書館をカフェ風にする計画について話し合った。意見としては、蜂の巣のような本棚を設置したり、塗ると黒板になるペンキを使い掲示板にしたり、ブックスタンド、ブックエンドなどの製作案が出ている。そして、もう一度図書館を確認したいとの声が上がり、実際に図書館に行ってみることに。現場を見てみると、床の色が暗い色に対して、壁や机の色が白ベースなどで色合いがマッチしていないことが発覚した。現場はカフェ風というよりもシェアオフィス感があった。カフェ風コーナーと他の場所の色が対象的なため、パーティーションで仕切れればいいと思った。様々な問題が発覚し、改善できたらいいと思う。

GREEN TECH ENGINEER LAB 中学１年生男子

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
コンサベーション・アライアンス・ジャパン
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　CAJ Conservation Alliance Japan 一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン